

# 広報たかなべ

2016. 7. 22 NO. 401

## 未完の夢

戦没画学生慰霊美術館「無言館」展

平成28年7月30日(土) ▶ 8月28日(日)

長野県上田市にある戦没画学生慰霊美術館「無言館」に收藏されている、太平洋戦争で没した画学生が生前制作した絵画や彫刻を展示します。  
戦後71年目となる本年、これからも平和について祈り、考え続けていかなければならないという思いが込められています。



太田章「妹・和子の像」



片桐彰「街」



興梧武「編みものする婦人」

戦没画学生慰霊美術館「無言館」所蔵

### 【目次】

- 防災特集 防災力を高める
- ようこそ高鍋町へ
- 第63回 高鍋町消防操法大会
- 地域に密着し、貢献できる  
企業を目指して
- ヤンバルトサカヤステの発生にご注意を!
- 平成28年度 高鍋町新規採用職員を  
紹介します
- 「めいりん児童クラブ」が開設されました
- まちの話題
- わが町の宝物

- 開館時間…午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日…毎週月曜日(祝日の場合は開館)  
祝日の翌日(土・日の場合は開館)
- 観覧料…大人800円(600円)  
小中高生・高齢者・障がい者・マタニティ400円(300円)  
※( )は団体料金(20名以上)および前売り料金。  
※高齢者料金は70歳以上、障がい者料金は障害者手帳所持者  
とその介護者1名まで。マタニティ料金は母子健康手帳所持者、  
未就学児は無料。
- 講演会  
「無言館」のこと～戦没画学生が伝えるもの～(電話予約が必要)  
日時…7月30日(土) 午後2時から3時30分まで  
会場…高鍋町美術館多目的ホール  
講師…窪島 誠一郎氏(戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主)

**防 災  
特 集**

**防災力を高める**

熊本県で震度7を観測する地震が発生し、被災地では、甚大な被害が出ました。  
地震や台風、大雨による水害などの自然災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。  
いざというときに慌てないために、**目ざろからの「備え」**はできていますか？



①

画像は、町職員が熊本県に被災地支援へ行ったときに撮影したものです。

- ①全壊した家屋【西原村】
- ②大規模な断層のずれが地表まで到達【阿蘇市】
- ③半壊したアパート【南阿蘇村】
- ④大規模な土砂崩れが発生【南阿蘇村】



④



③



②

**命を守るために**

4月14日の夜、熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生しました。さらに16日の未明には同じく熊本地方を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、それぞれの地震で最大震度7を観測しました。被災地では、家屋や道路の崩壊が相次ぎ、ピーク時には、およそ19万人超が避難所へ避難しました。

本町では、大きな被害はなかったものの、最大震度4を観測し、数日間、体を感じる地震が続きました。  
九州地方の身近な場所で発生した今回の地震では、改めてその脅威を感じるとともに、目ざろの災害に対する「備え」を再確認した方も多いのではないのでしょうか。

地震や水害などの自然災害から身を守るためには、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合っ  
て取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要とされています。  
その中でも基本となるものが「自助」です。

防災対策には、「絶対に大丈夫」というものではありません。一人一人が、自分の周りにどのような災害の危険が及ぶのかを考え、その被害をできるだけ少なくするために必要な対策を講じることが重要です。

**「被災地復興の力に」町職員が被災地へ**

甚大な被害を受けた熊本県を支援するため、町から本部管理栄養士が被災者の食事や栄養管理、岩廣保健師が健康管理や避難所の衛生管理、亀元・椎主事が家屋調査を行ってきました。

支援後、職員に現地の様子などを聞くと「大規模な災害が発生すると、行政だけではとても手が行き届きません。まず、命を守り、生きのびるための備え、次に、家屋が被災し、避難所で生活することになったときの備え、そして、地域で力を合わせて支え合う体制を整えておくことが大切だと改めて感じました」と話し、「被災地の日も早い復興をお祈りしながら、この経験を自分たちの町で生かせるようにしたいです」と話してくれました。



(左上から) 亀元真吾主事、椎良平主事  
(左下から) 岩廣よしみ保健師、本部比呂絵管理栄養士

◆お問い合わせ 総務課 危機管理担当 Tel: 26-2022



## 災害時のリーダー 防災士

町には95人の方が防災士の登録をしています。本町で最初に防災士の資格を取得し、現在もNPO法人宮崎県防災士ネットワーク西都児湯支部副支部長として活躍する石本典子さんに話をうかがいました。

石本さんは、平成19年に当時勤務していた町社会福祉協議会で、大規模災害が発生したときに協議会内で発足する災害ボランティアセンターの運営などを学ぶため、防災士の資格を取得しました。  
しかし、石本さんが防災士の資格を取得した当時は、地震に対する危機感はそのほどなく、「地震がこんなに恐ろしいもので、日ごろからの備えが重要なのだと多くの方が実感したのは、平成23年に発生した東日本大震災からではないでしょうか」と話します。

東日本大震災が起こった年の3月末に社会福祉協議会を定年退職した石本さんは、地域の防災力向上の必要性を感じ、宮崎県防災士ネットワークの西都児湯支部を仲間と一緒に立ち上げます。また、自身も防災士として、さらなる知識や技術の向上を図るため、研修への参加や地域の防災訓練への参加・指導などの活動を行っています。  
「今、家庭で防災対策をされている方も多いと思います。しかし、個人の知識だけでは、大規模な災害が起こったときはパニックとなり、準備はなかなか生かされません。パニックにならないためには、繰り返し訓練することが大切です。私たちが直接、地域にうかがって話をしたり、防災訓練を行うことも出来ません。ぜひ、防災士ネットワーク(※)へお気軽にお問い合わせください」と話してくれました。



6月26日(日)、高鍋町中央公園を中心に県主催で行われた防災士スキルアップ研修会に参加し、実技を学ぶ防災士の皆さん

※NPO法人  
宮崎県防災士ネットワーク  
(TEL) 0985-551-0447

## 「出前講座」を利用して確認する

# 我が家の防災対策

町では、日常生活の中で行政に対する「聞きたい」「知りたいたい」ことについて、町職員などが講師となり、皆さんのところへ「出前講座」を行っています。

39種類の講座の中から希望するものを選んでいただき開催しますが、この中でも人気の講座が「我が家の防災対策」です。

6月16日、道具小路南地区で約30人が参加し、「出前講座」が行われました。

講座の中では、地震の恐ろしさや家庭で簡単に取り組める防災対策、非常持出品などの紹介、そ

して、津波に関する事などについて説明を行いました。  
参加者は、配布された資料を見ながら、熱心に町職員の話を傾け、説明終了後には、避難所や備蓄品、防災無線に関する質問が出され、防災への関心の高さが感じられました。講座に参加した上野良子さんは「日ごろから、持出品や服用している薬の準備などはしているが、もしものときは足腰も弱っているのが怖いなど思っている。今日の話を参考に、より備えていきたいと思いました」と話してくれました。



これからの季節は、大雨や台風が発生しやすくなります。  
ぜひ、防災に関する基本的な知識を学ぶ機会として「出前講座」をご利用ください。



「出前講座」を受講する道具小路南地区の皆さん

◎「出前講座」に関するお問い合わせ  
政策推進課 情報政策係  
(TEL) 26-2003

## 「緊急地震速報」とは？

地震による強い揺れに備えて、身を守るための警報です。



緊急地震速報は、大きな地震が発生したときに、地震の発生直後に地震計でとらえた観測データを素早く解析して、震源や地震の規模（マグニチュード）、予想される揺れの強さ（震度）を自動計算し、大きな揺れがくることを事前に知らせる警報です。

最大震度5弱以上の揺れが予想されるときに、震度4以上の揺れが予想される地域に対して発表されます。

緊急地震速報は、気象庁の発表を受けて直ちに各自治体に設置してある防災行政無線や、テレビ・ラジオのほか、携帯電話（スマートフォンを含む）の「緊急速報メール」などで伝えられます。

 テレビ・ラジオ	 携帯電話・スマホ	 防災行政無線
●テレビやラジオを視聴している時に、報知音とともに放送されます。	●緊急地震速報を受信し報知音で知らせる携帯電話があります。	●市町村の防災行政無線から報知音とともに伝えられます。

## 「緊急地震速報」を見聞きしたとき とるべき行動は？

大きな声で周りに知らせ、慌てずに身の安全を確保しましょう。

地震が発生したときの適切な行動は、そのとき、その場所に依りて異なります。日ごろから、いろいろな場所で地震が起こったときのことをイメージし、「今、ここで、緊急地震速報を聞いたらどう行動すべきか」を状況に応じて考える習慣をつけましょう。

### 屋内にいるとき

- 家具の転倒や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる
- 慌てて外に飛び出さない
- 調理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない
- 扉を開けて避難路を確保する



### 屋外にいるとき

- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる
- ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる



イラスト：政府広報オンライン

◆お問い合わせ

総務課 危機管理担当 TEL：26-2022

## 「津波警報」とは？

大津波警報、津波警報、津波注意報の3つの区  
分で避難を呼びかけます。

気象庁では、地震の発生に伴って津波による災害の発生が予想される場合、津波の高さに応じて「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」を発表します。

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合は、地震の規模を正確に把握するまでに時間がかかるため、第1報では予想される津波の高さを、大津波警報のときは「巨大」、津波警報のときは「高い」という簡潔な言葉で発表します。



### 津波警報の情報発表の流れ



「巨大な津波」または「高い津波」という表現で、大津波警報や津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大津波が襲って来る可能性がある非常事態です。とにかく直ちに逃げる判断こそが命を守ります。

## 津波から身を守るための行動は？

強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、すぐ  
に高台へ避難！

津波から身を守るためには、津波警報が発表されたら「より遠く」ではなく、「より高い」ところを目指して逃げるのが大切です。大津波警報・津波警報を見聞きした場合には、直ちにより高い安全な場所を目指して避難してください。



津波は繰り返し何度も襲ってることがあります。警報・注意報が解除されるまで、決して油断せず、安全な場所に避難して、海には近づかないでください。

### もしものために「津波標識」の確認

津波の危険がある場合には、津波が襲来する危険があることを示す「津波注意」のほか、津波避難場所や津波避難ビルを示す津波標識が設置されています。万に備え、海の近くにいるときは必ず確認しておきましょう。また、日ごろから、町が配布しているハザードマップに目を通し、町内の避難場所等を確認しておきましょう。

